

令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号

令和2年5月15日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病（本年度2回目の注意報発表）
- 3 対象地域：中通り
- 4 発生量：多い

(1) 予報の根拠

- ア 5月上旬の調査において、春型枝病斑の発生ほ場割合は4月中旬に引き続き、平年より高く（図1）、過去10年で最も高い数値です。また、新梢葉での発病も確認されており、平年に比べて発生時期が早まっています。
- イ 天候予報（仙台管区気象台 令和2年5月14日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予測され、モモせん孔細菌病のさらなる感染拡大が懸念されます。

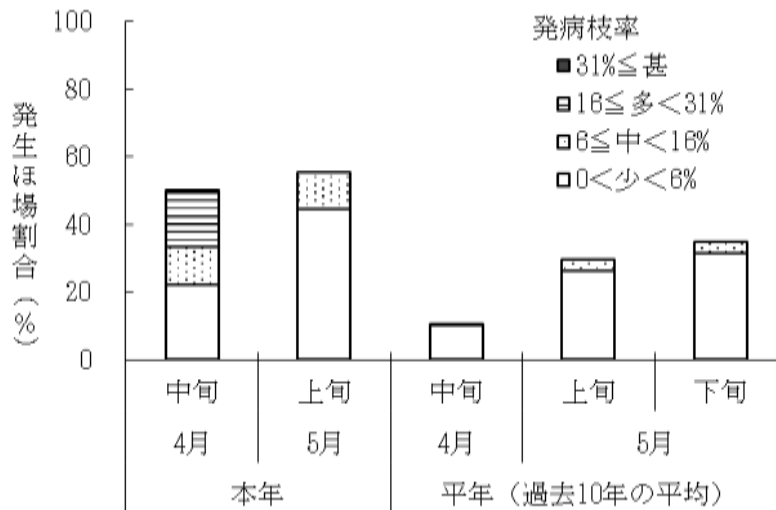


図1 モモせん孔細菌病春型枝病斑の発生状況（令和2年5月上旬）
調査地点：県北地区9園地、伊達地区9園地

(2) 防除対策

天候予報のとおりに移れば、果実に甚大な被害が発生することが懸念されます。
罹病部（枝、葉）のせん除を徹底し、菌密度の低下に努めましょう！！

ア 耕種的防除

- ・現在、新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい時期ですが、春型枝病斑の発生は続いているため、複数回園地を見回り、見落としのないよう丁寧に樹冠内部を確認してください。**発病枝の取り残しは被害拡大につながるため、発生を見逃さないようにしましょう**（図2）。
- ・春型枝病斑をせん除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて**可能な限り基部まで切り戻してください**（注意報第1号参照）。
- ・枝以外の発病部も可能な限りせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分してください。

イ 薬剤防除

- ・7月まで、10日ごとに薬剤散布を行ってください。なお、降雨が予想される場合は、**降雨前に散布を実施しましょう**。
- ・薬剤使用の際は、使用濃度、収穫前日数など使用方法を必ず確認してください。

ウ 物理的防除

- ・晩生種や黄肉種などでモモせん孔細菌病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施してください。

●情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所（福島県農業総合センター安全農業推進部）
次長 草野まで御連絡ください。

TEL 024-958-1707 FAX 024-958-1727

罹病部（枝、葉）のせん除を徹底しましょう！
園地を再度見回り、菌密度の低下を図りましょう。



図2 春型枝病斑の周囲での集団的な発病

罹病葉の周囲の枝には
春型枝病斑が発生して
いる可能性が高いた
め、丁寧に探してせん
除しましょう。

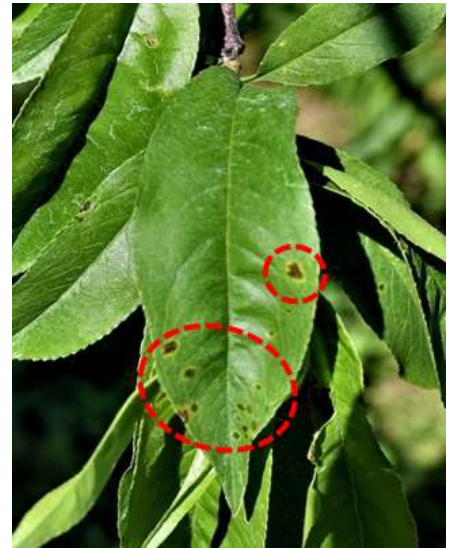


図3 罹病葉

写真提供：福島県農業総合センター果樹研究所